

2006年3月15日

ユニセフ・コープ ネットワーク

ほむ・ほむ通信

No.31

コープ・ユニセフ スマトラ沖地震津波復興支援募金キャンペーンの取り組み

04年12月に発生したスマトラ沖地震・津波に対して、全国で緊急募金活動が展開されました。しかし甚大な被害による様々な困難に直面している被災地の子どもたちを継続的に支援するため、05年を通して「コープ・ユニセフ スマトラ沖地震津波復興支援募金キャンペーン」が取り組まれました。そして、被災地の状況を組合員にお知らせするとともに、復興支援募金が取り組まれ、これまでに1億1千万円余りが寄せられ、緊急募金と復興支援募金の合計では4億円を越えました。全国のみなさん、ご協力ありがとうございました。

キャンペーンの取り組み概要（2005年）

2/24 スタート集会

7/26 現地報告会

報告：ユニセフ駐日事務所 岡村恭子さん

10/1~8 スリランカスタディツアーア

被災地での緊急から復興に至る支援活動の現場を視察しました。帰国後、報告会や機関紙での情報提供など、支援活動の理解を広げる取り組みが行われました。

10/31 福島、11/1 東京、11/4 兵庫

復興支援活動報告と市民レベルの災害支援を考えるシンポジウムを開催しました。



人形劇も紹介されました（兵庫シボ）



左：めいきん生協
「みんなのひろば」
下：おかやまコープ
「eats」
キャンペーンチラシ



おかやまコープのスマトラ復興支援募金キャンペーンでは、商品を通じた募金活動も取り組みました。共同購入商品案内チラシ「eats」では、11月から12月にかけて「募金対象商品マーク」がついている商品が掲載され、その商品を購入するとマークに記載されている「募金額」がそのまま募金になります。そして、インドネシア産のブラックタイガーを始め、おかやまコープの呼びかけに賛同いただいた取引先から多くの募金対象商品が選ばれました。

こうした取り組みにより、316万余りの募金が集められました。そして、1月31日の岡山県連組合員活動交流集会の場で募金贈呈式が取り組まれ、商品を通じて集められた募金とスマトラ復興支援募金を合わせた830万余りの募金が、ユニセフ協会岡山県支部に手渡されました。

（おかやまコープ 加百智津子さんから情報をいただきました）



HIV/エイズについて

あなたはどのくらい知っていますか？

「子どもとエイズ」世界キャンペーンが日本でもスタートしました。HIV/エイズが世界の脅威と言われ始めてから20余年。この間、世界は「エイズ」を主に「おとな問題」として捉え、対策や支援もおとなを中心に実施され、HIV/エイズによって直接・間接の影響を受けている「子どもたち」の問題には関心が寄せられませんでした。このキャンペーンが開始されるのを機に、ぼむぼむ通信でも、HIV/エイズとはどんな病気で、どんな影響を世界に、そして子どもたちに与えているのかについて取り上げます。みなさんも、HIV/エイズについての認識を深め、HIV/エイズの脅威を取り除くために、自分達にできることから始めていただければと思います。

(尾澤・林田)

第一回は、HIV/エイズの基礎知識をQ&Aでご紹介します。

Q. エイズってどんな病気？

A. エイズとは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染して起こる病気で、感染すると、身体を病気から守る免疫系が破壊されて、身体の抵抗力が低下し、様々な感染症や悪性腫瘍にかかるてしまうものです。

HIVに感染してもすぐには症状が現れませんが、性行為などによって他人にうつる状態にある期間が長く続きます。この期間を潜伏期間といい、短くて6ヶ月位から長い場合は15年以上の場合もあります。

潜伏期間を過ぎると、身体の抵抗力が弱まり様々な病気にかかります。この発病した状態をエイズと言います。

Q. どのようにして感染するのですか？

A. HIV感染経路は 性的接触、 血液感染、 母子感染の3つです。HIVは感染力が弱く、感染経路も限られていますから、感染予防は確実にできます。だ液、汗、涙などでは感染しません。

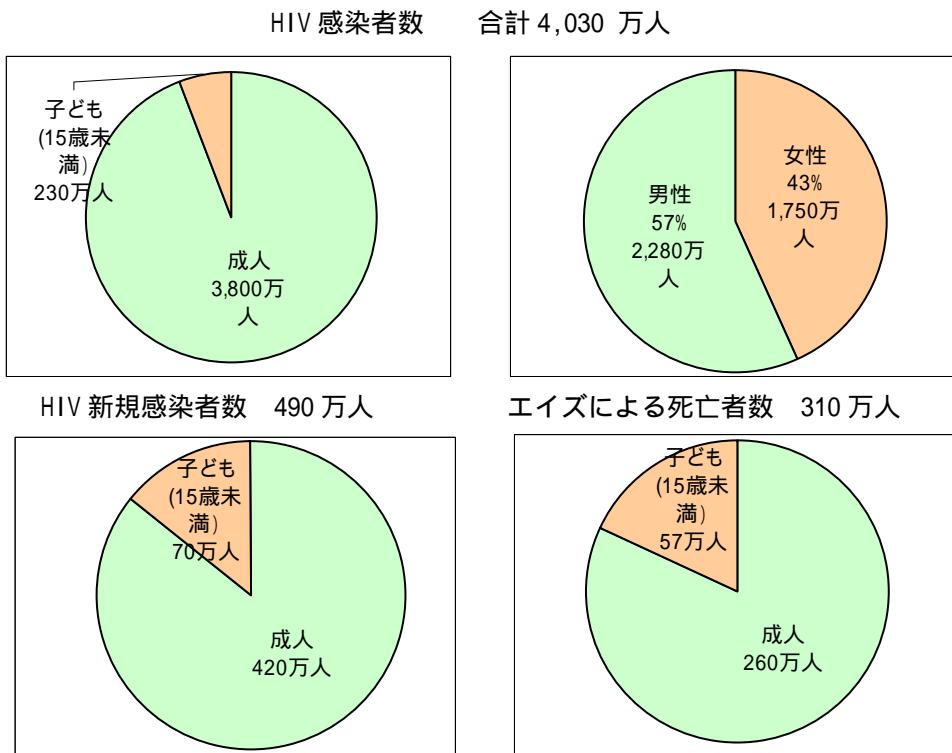
感染予防策を強化することにより、2010年までに世界で2,900万人の人人が新たに感染することを予防でき、若者の感染を4分の1に減らすことができると言われています。

Q. HIV感染はどうやって調べることができますか？

A. HIVに感染したかどうかは、通常、HIV抗体検査という血液検査によってわかります。これは、HIVに感染すると体内にできるHIV抗体の有無を調べる検査です。日本では、全国の保健所で無料・匿名で検査を受けることができます。抗体が検査で検知できるようになるには時間がかかるので、感染したと思われる日から約3ヶ月後以降に検査をすることが適切です。なお、職場などの定期健康診断などの一般的な血液検査ではHIV感染を判断することはできません。また、HIV検査を目的とした献血を防ぐために、献血された人に対するHIV感染の告知は原則的に行われていません。

Q. HIV 感染者は世界にどのくらいいるのですか？

A. 2005 年末現在の推定値は以下のとおりです。 (UNAIDS/WHO 報告書による)



世界の HIV 感染者の 3 分の 2、女性の HIV 感染者の 77% がサハラ以南のアフリカに集中しています。また、新生児の HIV 感染のおよそ 90% は、サハラ以南のアフリカで起きていますが、その他の地域、特にアジアでも増加しています。

サハラ以南のアフリカでは、15~24 歳の新規の HIV 感染者の 3 分の 2 は女性です。

Q. エイズは治療できるのですか？

A. HIV 感染症を根治させる薬、例えば身体の中から HIV をすべて排除してしまうような薬というのはまだ見つかっていませんが、1990 年代の半ば過ぎから強力な効果を持つ抗ウイルス薬が登場し、使えるようになっています。これらの薬により、HIV が体内で増殖するのを抑えることができます。米国などのデータによれば、エイズで亡くなる人が減り、日和見感染症*などを起こす人も減りました。但し、これらは治療ではないため、ウイルスの活性化を防ぐためには薬を服用しつづけなければなりません。

抗ウイルス薬による子ども向けの治療は遅れており、大人向けに比べ高価です。既存の処方薬は子どもや飲みやすい形になっていないという問題もあります。また、マラリアや肺炎など、子どもたちの命を奪う病気の治療に使われるコトリモクサゾールと呼ばれる薬を、日和見感染症からの予防薬として使えば、HIV に感染した子どもや、HIV 陽性の母親から生まれた子どものうち、まだ感染が確認されていない子どもたちでも、こうした感染の脅威から救うことができます。

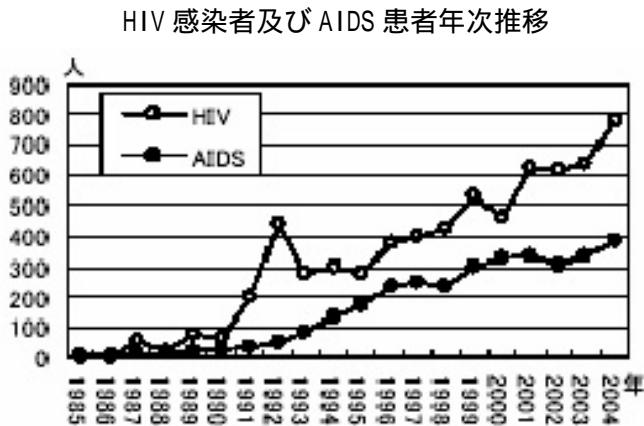
*免疫が正常な人では問題にならないような病原性の弱い微生物が、免疫力が衰えると害を及ぼすようになることを日和見感染と言います。

Q. 日本ではどのくらいの感染者がいるのですか？ その感染経路は？

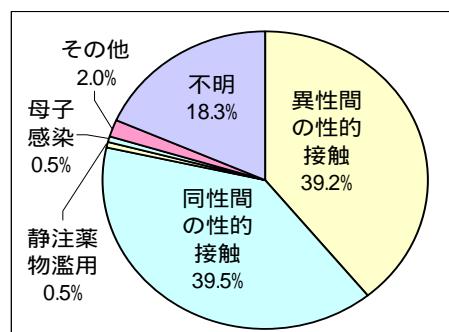
A. 2006年1月現在の統計で、HIV感染者数が7,339人、エイズ患者数が3,623人います。

性別	HIV 感染者数	エイズ患者数
男性	5,610人	3,149人
女性	1,728人	474人
合計	7,338人	3,623人

(エイズ動向委員会報告 2006年1月より)



HIV 感染経路 (2004年末累計)



エイズ動向委員会報告の2004年の発生動向年報によると、日本では1996年以来8年間ほぼ一貫してHIV感染者の報告件数が増加しており、2004年の新規感染報告数は780件でした。

Q. HIVに感染したあかちゃんが生まれてくることもあるのですか？

A. 胎児は、母親の胎盤から血液をもらって育つため、HIVに感染した母親からは胎盤感染をすることがあります。また、出産時には胎盤が剥がれることや産道が裂けやすいために出血します。その血液によって産道感染することもあります。さらに、生まれた後、母乳によって感染する母乳感染もあります。

Q. HIV感染予防策がとられないと、どのくらいの割合で母子感染するのですか？

A. HIV感染予防策が取られなければ、HIV陽性の女性の元に生まれてきた子どもの約35%は、HIVに感染するといわれています。しかし、包括的な予防策をとることで、母子感染はほぼ抑えることが可能です。

(エイズ予防情報ネットより一部抜粋してご紹介させていただきました)

「子どもとエイズ」世界キャンペーンの詳しい内容については日本ユニセフ協会ホームページをご覧下さい。<http://www.unicef.or.jp/campaign/051025/index.html>

UNITE FOR CHILDREN **UNITE AGAINST AIDS**

この国 どんな国 ラオス人民民主共和国の巻

5つの国に囲まれた海のない国



70%が高原や山岳地帯
面積 236,880 km² (日本の本州位) 人口およそ 550万人
ラオ族(60%)の他 48 あまりの民族からなる。首都はビエンチャン

信仰に厚い国で、仏教は日々の暮らしの中に溶け込んでいます。人生の節目(出生、新年、結婚、送別、歓迎、死別、快気など)祈祷師の祈りとともに手首に白い糸を巻きつけて、健康や子孫繁栄などを願うバーシーという儀式が有名です。

インドシナの戦火に巻き込まれ、この9年に及ぶ空爆と継続的な地上戦により、今でも多くの地雷や不発弾が埋まっている国の1つに数えられています。地理的、文化的、言語的に多様性が高く、又、近年アジアの経済危機の影響もストレートに受け、海外の経済援助を受けている状態。日本も主要援助国。

1995年世界遺産に登録されたルアンパバーンはラオス王国の首都として君臨した山間の古都。80もの寺院がひしめきます。



寺院 ワット・シエントーン

托鉢の列

朝 寺院から出てきた僧侶たちに人々はひざまずき、米やおかずを鉢にいれていく。托鉢はラオス全国でおこなわれているが、有名な寺院が多いルアンパバーンではその姿を多くみかけることができます。

2001年 2つめの世界遺産 ワット・ブー登録
ワット(寺)ブー(山)の名のとおり、山の斜面に沿って広がる大遺跡。こちらも近年観光客の注目を集めています。



ラオスの織物・民族衣装

天然染料で染めた絹糸による緻密な縫い取りの「サムヌア織り」は美しい。「シン」はチューブスカートの形をしたラオ族女性の民族衣装です。その他の各民族も独自の民族衣装、織物の糸や染料、模様装飾技法を有し、村々で着飾った人々に巡りあえる感激はラオス旅行の醍醐味ともなっています。

ラオスの食事・お酒

カオニヤオ (もち米)を小さくまるめておかずにつけてたべるのが 代表的

ラープ

ひき肉にレモン汁、レモングラス、香草などを混ぜていためた料理

使う肉は 牛、豚、鶏のほかアヒルや魚なども

フランスパン

サンドイッチがおいしい。

真ん中から割って練乳をかけたものもある。

ラオ・ラーオ

「ラオ」は酒「ラーオ」はラオスつまりラオスの酒米焼酎のこと。市販でアルコール40度

自家蒸留しているものは70度以上のものもある。

サンハイ村はこのラオ・ラーオの生産で有名



世界の子ども達は今

<ラオス>

生協の指定募金で行われている活動は、ラオスの村の住民自らが問題点を発見し、解決策を考え開発計画を立てることを支援し、村人の要望に基づいて村の食糧確保、教育と保健サービスの向上、トイレや井戸の設置、女性の職業訓練と収入向上などを行っていくという、ラオスの人々の自立を助ける支援活動です。

(文) 松本真弓 / (絵) 蟹沢素子

<母親や父親への育児研修>

就学前の子ども達の成長の大切さと育児方法を知る



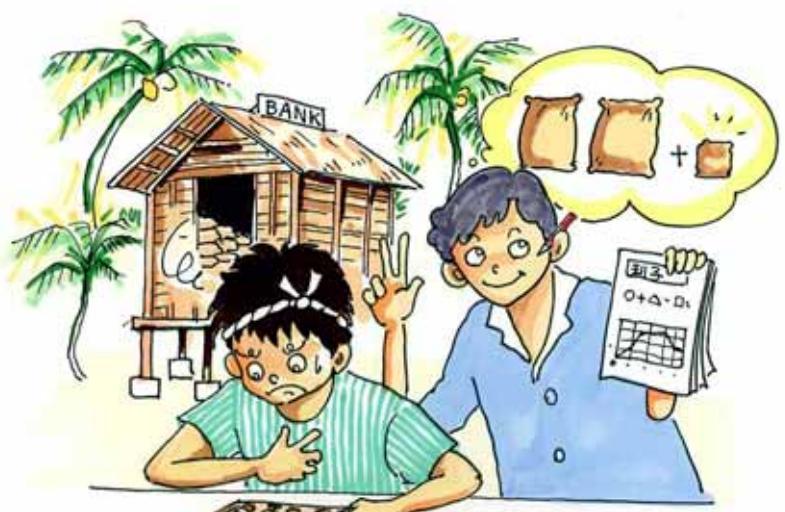
<養鶏やきのこ栽培等の技術研修>

村の食料不足に対して農業や畜産の生産性が向上



<米銀行>

ユニセフが最初の米を支援。米が不足した時に低利で借りることができる。米銀行を継続的に運営するためのノウハウについても研修



<トイレや井戸の建設>

ユニセフからの資材提供、不衛生な環境が原因の病気が減少

2005年度 ラオス スタディツアーレポート

2006年2月4日(土)~12日(日)の日程で、ラオスのユニセフスタディツアーレポートに参加しました。現地の女性と子どもたちの様子と、ユニセフの支援活動の一部をご紹介します。(谷杉 佐奈美)

保健・水と衛生

ラオスは世界最貧国の一ひとつであり、人口の73%が1日2\$以下で生活しており、健康・教育・安全な水・下水設備はまだ十分に行き渡っていません。国土の3分の2が山地という複雑な地形は、経済にとっても大きな障害となっています。言語・文化の異なる多くの少数民族(ユニセフの確認では46民族)をもつラオスでは、その大部分が農村で自給自足の生活をしており、田舎や少数民族の女性や子どもたちは特に厳しい状況にあります。



「水道が引かれる前は、1日に何度もこんなふうに子どもを背負って川まで水汲みに行きました。今は、まるで生まれかわったみたいに楽になりました」と、嬉しさを語る9人の子どものお母さん。

ラオスでは未だに40%の人々が安全な水を手に入れることができず、65%の人々が下水設備が不十分な生活をしています。険しい地形は、水汲みの仕事を担っている女性と子どもにとって大きな負担となり、下水設備が整っていないために病気の発生率も高い状況です。

山間部ではユニセフの支援によって、山の湧き水を引き込み、村に水道を設置したり、トイレの設置が行われていました。保健スタッフによる、健康診断や予防接種も行われています。



ユニセフの支援で設置された学校のトイレ。掃除は各クラスで順番に行っています。



5歳未満の子どもの死亡率は、1990年には1000人中134人の割合だったが、2004年には82人と減少傾向にあります。しかし、5歳未満の子どもの40%が平均体重に達していません。

ユニセフでトレーニングされた、保健スタッフによる、子どもの体重測定の様子。ビタミンAの投与も行われています。

教 育

ラオスの義務教育は5年間ですが、全ての小学校で1年から5年までの学級があるのは、たったの41%しかありません。異なる学年の生徒が、同じクラスで授業を受けている状態の方が多いのです。小学校の就学率は上がってきていますが、約20%の学齢児童が今も教育を受けられないでいます。粗末な学校設備や不適当なカリキュラム、教師の不足やそのトレーニングも不十分です。

ユニセフは教師の研修も行っていますが、ラオス仏教協会の協力を得ながら、生活や道徳の教育を行うプロジェクトを行っています。



国民の大半が仏教を信仰しているラオスでは、お坊さんは皆に尊敬されています。お坊さんによる、参加型学習の授業の様子。



休み時間に木陰で読書する子どもたち。

「子どもにやさしい学校」プロジェクトが行われているモデル校です。参加型学習、健康診断、図書コーナーの設置など先進的な試みがなされています。子どもたちの成績も上がり、地域での就学率もほぼ100%になりました。

保 護

ラオスの人口の半数が18歳未満であり、大部分が特別な技術もなく、それを身に付けたり学ぶ機会をもっていません。隣接する国々が早くに開発されるなか、ラオスは近年になって近隣諸国や周辺地域に対して開けてきました。それにより、不発弾（ラオスは世界一と言われています。被害者の49%は子ども）や地雷の被害、ストリートチルドレンの増加などの従来の問題に加え、若者の移住やHIV/AIDS、国境を越えて行われるトラフィッキングなどの、新しい問題も表面化してきています。



感染者の身体と心をケアするためのプロジェクトによる「明るい家族」という名称の自助救済グループ。毎月1回の集会では、健康チェックや病気の話しの他にも、周りからの差別や経済的悩みなどについても話し合ったり、助け合ったりしている。



タイとの国境“フレンドシップ・ブリッジ”の袂に掲げられていた「人身取引」への注意を促している看板。5箇所の国境に設置されている。



ストリートチルドレンの保護センター。勉強の以外にも生活習慣や衛生・保健教育などを行っている。ここで寝泊りして、地域の学校に通っている子どももいる。子どもたちを家に戻すためのケアや、再びストリートチルドレンにならないための教育も行っている。

生協のユニセフ活動

Partnership

みかわ市民生協では、ハンド・イン・ハンドとユニセフ基礎講座が取り組まれました。

みかわ市民生協では、05年12月に組合員の自主活動として6店舗で「ユニセフ ハンド・イン・ハンド」が初めて取り組まれました。

今回の取り組みにあたり、組合員にも呼びかけて「ユニセフ活動相談会」に集まっていたいただき、6店舗を拠点にそれぞれの地域で活動が広がるよう進め方を相談しました。

各店舗とも寒い中での活動で大変でしたが、ユニセフの取り組みと分かるとわざわざ戻ってきて募金されたり、親子連れが募金の呼びかけに応えてもらったことが印象に残ったとの感想が、参加者から寄せられました。

ある店舗では近くの高校の生徒にも参加を呼びかけ、その元気な呼びかけに多くの人から募金が寄せられました。合わせてユニセフカードの販売も行われた店舗もあり、カードが並べられている人が集まくるので効果的でした。

今回の取り組みでは、39名が参加して106,547円の募金が集まりました。

みかわ市民生協としては初めての取り組みでしたが、6店舗すべてで成功させることができました。今後の活動のためには、それぞれの地域で活動が自動的に取り組まれ広がるように、年に1、2回のユニセフ活動交流会の開催も検討しています。

また、みかわ市民生協ライフワークセミナー基礎講座の企画として、「ユニセフってなあに？」も開催されました。

1月27日、コープ安城よこやまの「くすの木ハ



ウス」にて、ユニセフの基本的なこと、生協の取り組みと現状を伝え、ユニセフにより深く関心を持つていただくことを目的に10名が参加して開催されました。

世界各国のあいさつで自己紹介を行った後、05年8月に開催された「ユニセフリーダー研修交流会」の資料も活用しながら、日本と他の国との身近なつながりを感じたり、写真からどこの国の様子かを考えるワークショップを取り組みました。そして、5歳未満で亡くなる子どもの数や平均寿命、子どもの就業率、平均所得を比較して、その国の子どもの現状について話し合いました。

続いて、ユニセフの重点的な取り組みと、生協で行っている「ユニセフお年玉募金」「チャリティカレンダー」「ハンド・イン・ハンド」などの活動を紹介や、今年度初めて行った「ハンド・イン・ハンド」について話し合いました。言葉で国は知っていても、いかにその国について知らないかが分かった、こうした内容でまた企画して欲しいとの声も出されました。

「ユニセフリーダー研修交流会」の参加者からの発信で、みかわ市民生協でハンド・イン・ハンドが実現しました。その中で主体的に行動することの重要性と、より多くの方に知らせること、呼びかけることの大切さを実感しました。今後もこうした主体的な活動が広がるよう、ユニセフ活動交流会を取り組んでいく予定です。

(みかわ市民生協 大場美佳さんからの情報です)



岡山県鴨方西小学校のユニセフ募金の取り組みを紹介します

岡山県にある鴨方西小学校では、6年生の国語の授業で「ヒロシマ」について学習する中で、戦争で被害を受けた世界の子どもたちについて調べることになりました。そして、その子どもたちのために自分たちにできることを考え、具体的な行動としてユニセフ募金を取り組むことになりました。

募金についても、親からもらったお金ではなく、自分たちの力で作り出したお金を募金にするために、クッキーを焼いたり、ポップコーンを作ったり、リサイクル工作も作って、バザーで多くの方に買ってもらうことにしました。

児童の家族にはお知らせチラシを作つて配布して、校長先生には児童自らがお願いするなど、多くの方々の協力によりバザーを成功させました。

こうして 33914 円の募金が集まりましたが、一人の児童からおかやまコープを通じてユニセフに募金することの提案があり、児童から「募金の贈呈をしたいのです

が、どうしたらいいのですか」という電話がおかやまコープにかかるこことから、おかやまコープの理事が対応したユニセフ学習会と贈呈式が取り組まれました。

1月30日、以前ラオスのスタディツアーに参加した経験を持つおかやまコープの船木理事が講師役となり、約130名の児童が参加して開催されました。そして募金の使われ方を学んだり、あめを使った食料ゲームも取り組みました。

「世界のうち 4 分の 3 を占める貧しい国が、世界の 4 分の 1 の食料しか食べていないんだよ」という話には「ええ～！！！」という大きな声が上がります。素直に反応してくれる児童に講師を努めた理事も感激です。元気に手を挙げて「分けてあげよう！」って答えてくれる児童もたくさんいて、とても楽しいゲームができました。

児童たちは募金に取り組む中でユニセフについても調べてきましたが、ゲームを通じてユニセフの活動がよく分かった、楽しく学べたという感想が寄せられました。

私からのお話の後、先生から「となりの人と仲良く、となりの人にやさしく」と、まとめのお話をされたときに、となりのお友だちにそっと手をつないでいるお友だちを見つけました。本当にここに来てよかったと思いました。

おかやまコープ理事 船木あけみさん

ぼむぼむ通信の通算31号をお届けします。全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積極的に紹介していきます。また、各地の活動の参考になるような取り組みのご案内も行っています。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください
次号は、6月15日発行です。
お楽しみに！

ぼむぼむ広場

ユニセフ*コープネットワーク

ぼむ・ぼむ通信

No.31 2006年3月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集 / 尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・林田・北村・茂垣

イラスト / 蛭沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>